

2024（令和 6）年度

目白大学短期大学部外部評価委員会 報告書

2024 年 11 月 9 日

目白大学短期大学部

プログラム

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 出席者自己紹介
4. 議事進行
5. 閉会

外部評価委員会委員

敬称略、2024 年 4 月 24 日現在

氏名	所属・肩書	*1
吉田 直子	学校法人目白学園 目白研心中学校・高等学校 校長	1 号
内田 吉彦	有限会社芝榮太樓 社長	2 号
峰尾 隼人	株式会社 Criacao (クリアソ) クラブ事業部 競技企画・運営室 室長	3 号
石塚 美喜男	西落合旭通り商店会 会長 (株式会社伊勢光 代表取締役社長)	3 号
矢口 雅子	目白大学短期大学部校友会 会長	4 号
岩倉 正枝	株式会社クレセントアイズ 代表取締役会長	4 号
入江 祐介	社会福祉法人パール 常務理事 特別養護老人ホーム パール代官山 施設長	5 号

*1 目白大学短期大学部外部評価委員会規程第 3 条の号に合致した者

2024 年度 目白大学短期大学部外部評価委員会 議事概要

【開催概要】

開催日	2024（令和 6）年 11 月 9 日（土）	
時間	13：00～14：30	
形式	Zoom ミーティングによる遠隔会議	
外部評価委員 出席者	吉田 直子	大学・高等学校等の教育機関の教職員
	峰尾 隼人	地域の関係者・本学参画の地域活動の関係者
	矢口 雅子	本学卒業者
目白大学短期大学部 出席者	山田 隆文	学長
	小松 由美	副学長（司会進行）
	伊藤 浩正	製菓学科長
	上岡 史郎	ビジネス社会学科長
	佐藤 昌史	歯科衛生学科長
	中野 恵美子	学務副部長（教務担当）
	常松 玲子	学務副部長（進路担当）
	本勝 公二郎	大学企画室 課長
	小島 洋介	大学企画室 課長代理
	三竹 克季	大学企画室（事務局担当）

*欠席者（4 名）からは、事前に別途書面にて回答を頂いている。

【議 題】

1. 開会

山田学長より、本学の状況について説明があり、忌憚のない意見をいただきたいとの説明があった。続いて、外部評価委員の皆様より、名簿順に自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介を行った。

2. 目白大学短期大学部における新規事業構想について（報告）

山田学長より、2024 年 8 月末に私立大学等経常費補助金事業へ申請を行ったことが報告され、その概要「首都圏型地域協創コミュニティカレッジへのリイマジニング」について説明があった。

3. 2023 年度自己点検評価報告書について

「教育」「学生募集」「学生指導」「研究」「社会貢献」「その他」の分野の順に、事前に書面で回答のあった内容を各項目の冒頭で読み上げた後、外部評価委員に意見・質問を求めた。

(1) 教育について

～委員からの評価・意見～

①「育てて送り出す」から「育って羽ばたく」へのシフトチェンジについて

- ・このシフトチェンジは賛同する。「羽ばたく」の方が、学生が主体的に意思を持っているニュアンスを伝えているという印象を受けた。いかに短大がそのような機会を提供できるかが大事である。民間企業や地域の団体と連携し、短大での学びと課外活動を行き来しながら学生が羽ばたくための機会を提供できるとよい。
- ・短大の「育てて送り出す」から「育って羽ばたく」へのシフトチェンジは新しい時代に合っており、良いと思う。短大での2年間で基礎学力をつけることはなかなか難しいが、若く、一番刺激の受けやすい時期に先生方からの様々な機会提供があることは非常に良いことであると思う。
- ・中学・高校では生徒が主体的に学ぶことができるように、実際に経験・体験できるような場を提供し、選択できるようにしている。短大でもそのような機会提供を増やしていくとよいのではないかなと思う。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・製菓学科では就職活動などの影響があるかと思うが、2年生の秋頃に「育って羽ばたく」に適合するような主体的に行動ができる学生が増えてくる。今後は、学生に対し、多くの経験ができるインターンシップや製菓販売実習などの機会を提供することで、主体的に行動ができる時期を早める教育などを検討していかなければならないと考えている。
- ・各学科では入学前から初年次において、社会に適応していくための教育を色々と検討している。一方、中には色々な人との関わりを持つことに苦手意識のある学生もいるため、どうすれば全ての学生が前向きになれるかが課題と考えている。

②インターンシップやキャリア形成支援について

- ・自社では大学生（3,4年生）及び短大生の両方の学生の受け入れを行っている。大学生と短大生を見ていて違いを感じる場所としては、大学生（3,4年生）の方が、外部の人とのコミュニケーションの取り方やディスカッションをすることについて慣れている学生が多い印象を受け、実践経験の差というものを感じる。
- ・学校側に求めることとしては、今後の学生たちの長いキャリアを考える上で、学生時代に自分と向き合った経験や何に興味があるのか、何をやっていきたいのかを考える機会が提供できるとよいと思う。大学・短大だけではなく、色々な企業・地域と連携して機会を提供できればよいと思う。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・これまでの「教育」に関する意見を踏まえ、今後短大でも実習や行事など様々な機会を学生に提供し、学生が自発的に動ける力を育成していくことが今後の課題である。

（２）「学生募集」について

～委員からの評価・意見～

- ・生徒に対して、受験する大学等の第３希望程度までは、オープンキャンパスに足を運ぶことや、AP に必ず目を通しておくように指導している。また、必要があれば AP の内容について、大学やその大学に進学した高校の先輩に問い合わせなどをするよう指導している。
- ・高校でも１、２年生全員に、夏休みに大学見学（オープンキャンパス参加等）に参加する課題を出している。中には、５回もオープンキャンパスに参加するなど熱意のある生徒もあり、色々と情報収集し、入学後にその大学でできることは何かを見極め、慎重に志望校を決める生徒もいる。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・ビジネス社会学科の場合、自分の求めている分野のみを見ていく生徒と、複数回見学に来てくれる生徒など、様々なパターンがあるように感じる。短大としては、何回も高校生に来てもらえるような魅力的な短大にしていけることが必要である。

（３）学生指導について

～委員からの評価・意見～

- ・４、５月に学園祭実行委員の学生と挨拶を交わし、１０月の学園祭が開催時に再会すると、学生たちのふるまいの違いや成長度合い、実行委員の学生の統制が取れていることなどに驚く。このような若者が羽ばたいていくのは頼もしい。日頃の先生方の指導が学生の成長として表れていて非常に嬉しく思った。
- ・中学校では教養教育の取組みの一つとして、国語科・美術科・図書館司書などが連携をして、教科横断型の授業で自分の好きな本の装丁と帯を作るという取組みを行っている。学生の作品については、文化祭で展示している。また、外部の図書館のコンテストに出品した際には、賞を貰うこともあった。
- ・近年、世の中を騒がせている若者の SNS を利用方法については、短大ではどのような指導を行っているのか教えていただきたい。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・近年は多様な学生の入学が増え、中にはボーダーライン上において困り感のある学生もいる。保護者等とのやり取りを増やすなどして中途退学防止の取組みを行っている。また、そのような学生については就職活動時に顕著な問題が出てくることがあるため、キャリアセンター等とも連携し、学生生活に馴染めない学生に対する講座を開設するなどして対応している。
- ・読書には感受性を豊かにする効果があり、活字に触れる機会を増やすなど、短大での教養教育に活かすヒントにもなる。現在、教養を高めるための取組みとして、年間３冊の本を読む、あるいはミュージアム等を見学した感想文を書くなどをした学生の中

から表彰を行う「教養マラソン」を実施しているが、さらに活性化していきたい。また、入学前教育として全員に課題図書を与え、本に親しむ機会を作るような取組みも実施している。

- ・4月のオリエンテーションにおいて SNS の利用方法について注意喚起は行っているが、そのような機会を増やすことが大事だと感じており、学内に SNS の利用方法について著作がある先生もいるので、授業で講話いただくことなども検討したい。

（４）「研究」について

～委員からの評価・意見～

- ・会議出席、資料作成やその他事務作業等に多大な労力を割いているように見受けられる。学園の運営上難しいのかもしれないが、もう少し人員を増やすなどして、学生指導に時間を割けるようになればよいと思う。
- ・中高では短大とは違い、授業研究は余力があればという形となっているが、授業や部活動、生徒指導などに各教員は多くの労力を割いており、ワークライフバランスが取れている状況とは言えない。また、学生募集についても、先生方が中学校や塾などを訪問して PR するなどの取組みも行っているので、各教員の負担が大きいことについては共感する部分がある。

（５）「社会貢献」について

～委員からの評価・意見～

- ・地域連携活動について、クリアソンでは学生と地域の方々の橋渡し、ハブ機能の役割を担うことができたらと考えている。商店会や地域の方々から話を聞くと、学生や若い人たちの力を求める声が多い。企業側が上手く両者の間に入り、双方が上手く連携をとることができる場を提供できればと思っている。サッカークラブとして地域活動や社会貢献活動を積極的に行っていきたいと考えており、今後も学生と様々な取組みで連携し、地域を盛り上げていくことに関わらせていただきたい。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・ビジネス社会学科では、社会貢献企業であるクリアソンを通して、新宿区にある企業や他大学等とも繋いでいただき、様々な連携活動を行っている。短大のインターンシップは1年生の8月に実施するが、12月にその振り返りを行った時に、学生の成長を実感している。また、今年度からは新宿区とも商店街活性化に係る包括連携協定を結んでおり、実際に近隣の西落合朝日通り商店会の活性化について学生と取り組んでおり、その活動についても今後助言など頂ければと思う。
- ・製菓学科ではお菓子作りを通して地域連携活動を実施している。今年度の活動としては、さいたま岩槻キャンパスで行われた桐葉祭でお菓子作り教室を開催したり、新宿キャンパスでは、中学生のお菓子作り体験の受け入れや台湾の学生との交流を行ったりと、学生を巻き込んで様々な活動を展開している。このような活動は学生のコミュニケーション力の育成にも繋がることから、今後も継続していきたい。

(6) その他

～委員からの評価・意見～

- ・短大における新規事業構想「首都圏型地域協創コミュニティカレッジへのリイマジニング」の「留学生」「地域連携」「社会人」の積極的受け入れという計画は、非常に魅力的であると思う。学校行事で台湾への修学旅行に行った際に関わった現地の学生の中にも、日本で働くために日本のビジネスマナーを学びたいと言っている方がいた。その学生は、4年制大学では期間が長い、短大の2年間であれば考えるという話もしていた。ニーズはあると思うので、是非、短大3学科それぞれの専門性の高さという魅力を生かし、計画実現に向けて頑張っていたきたい。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・短大の新規事業構想について、日本では高校卒業後そのまま短大に入学することがほとんどだが、欧米ではキャリアに要する資格取得のためなど、社会人の「学びなおし」として、日本の短大にあたるコミュニティカレッジへの進学ニーズがある。そのような欧米型のコミュニティカレッジのような形で社会人等にも短大の門戸を広げることが計画の核となっている。また、多様な学生が入学してくる中で、どのように学生の主体性を育むかは課題であるが、本日の委員会にもあった、学生への「機会提供」として学科間の交流イベントなどを増やすことや、学力向上のためにも読書活動する機会を推進していきたいと考えている。短大の学生募集状況は全国的に厳しいが、本学の特徴を生かしながら、社会人をはじめとする多様な学生の受け入れなどを推進していきたい。

3. 閉会

山田学長より、外部評価委員の皆様には感謝を伝え、閉会した。

以 上